

August 30, 2026

信仰の確信

テサロニケ第一 1:4-6

1:4 神に愛されている兄弟たち。私たちは、あなたがたが神に選ばれていることを知っています。

1:5 私たちの福音は、ことばだけでなく、力と聖霊と強い確信を伴って、あなたがたの間に届いたからです。あなたがたのところで、私たちがあなたがたのためにどのように行動していたかは、あなたがたが知っているとおります。

1:6 あなたがたも、多くの苦難の中で、聖霊による喜びをもってみことばを受け入れ、私たちに、そして主に倣う者になりました。

ずいぶん以前の日本でのことですが、教会に行き始めたばかりの人がこんなことを話していました。「牧師さんはいつも自分の『苦労話』をするが、苦労ならおれのほうがもっとしている。教会では、天国のこととか、もっと『ありがたい話』を聞きたいね。」その牧師は、説教を聞く人たちがそれを実際の生活にあてはめられるようにと、自分のことを事例にあげたのでしょうが、その印象が強かったため、この人は、『ありがたい話』を聞きそこねたのかもしれません。

『ありがたい話』というのは仏教の法話のようなものを連想させますが、聖書は、じつは『ありがたい話』なのです。聖書はそれを「福音」（Good News）と呼んでいます。聖書は「福音」と「信仰」を語っています。イエスの宣教の第一声は「時が満ち、神の国が近づいた。悔い改めて福音を信じなさい」

（マルコ 1:15）でした。イエスは天にお帰りになるとき、弟子たちに「全世界に出て行き、すべての造られた者に福音を宣べ伝えなさい」（マルコ 16:15）と命じておられます。福音が

「信じるすべての人に救いをもたらす神の力」（ローマ 1:16）だからです。人は、福音を聞き、それを信じて救われます。

一、福音の力

テサロニケのクリスチャンも、福音を聞き、それを信じて救われました。パウロは「私たちの福音は、ことばだけでなく、力と聖霊と強い確信を伴って、あなたがたの間に届いた」（5節）と言っています。「力」と「聖霊」と「強い確信」、これは福音が伝えられ、それが信じられるときにいつも伴うものです。

「力」とは福音が持っている人を救う力です。それは信じる人の人生を大きく変えます。福音を聞いて信じて変わらなかった人は誰もいません。パウロ自身がそうでした。それまでクリスチャンを迫害していた人が、キリストを宣べ伝える人となったのです。

「アメージング・グレイス」の作者、ジョン・ニュートンのことを皆さんはよくご存じでしょう。彼は英国の貿易船の船主の息子でしたが手のつけられない乱暴者でした。海軍に徴兵されましたが罰を受けて西アフリカに置き去りにされ奴隷にされたこともあります。22歳のとき彼が乗った船が嵐で沈みそうになったとき、彼は母が神に祈っていた姿を思い起こし、自分も神に祈りました。そのときから彼は信仰の道を歩み始めましたが、奴隷船の船長としてアフリカから多くの奴隷を運ぶ仕事を続けていました。30歳のとき、その仕事をやめ税関で働きながら牧師となる勉強を始めました。38歳で牧師となり、賛美歌を書き始めました。1779年、54歳のときに賛美歌集を出版しました。「アメージング・グレイス」はそこにおさめられていた

ものの一つです。

1788 年、ニュートンは奴隷貿易に反対する意見をパンフレットにして表明しました。その中でかつて奴隷貿易にかかわったことを悔い改め、謝罪しています。そして、奴隷貿易禁止のために働いていた下院議員ウィリアム・ウィルバーフォースを支えました。ニュートンは 1807 年 12 月 21 日、82 歳で亡くなりましたが、そのおよそ半年前、5 月 1 日に奴隷貿易禁止の法律の成立を見届けています。福音とそれを信じる信仰は一人の人ジョン・ニュートンを変えただけでなく、当時の世界で最も力のあった大英帝国を変える力となったのです。

日本にも、政治や経済、教育や福祉に貢献した人が大勢いますが、その多くはクリスチャンでした。「ライオン」といえば歯磨きで有名な会社です。その創業者小林富次郎は明治 24 年に事業を始めましたが失敗し、絶望して自殺しようとした。しかし、「すべての訓練は、そのときは喜ばしいものではなく、かえって苦しく思われるものですが、後になると、これによって鍛えられた人々に、義という平安の実を結ばせます」（ヘブル 12:11）との言葉によってそれを思いとどまり、歯磨きの製造に乗り出し成功しました。彼は岡山孤児院などを建て、事業の成功を社会に還元しました。

森永製菓の森永太郎はアメリカでお菓子づくりを学んでいたときに信仰を持ちました。アメリカの製造方法でお菓子を作ったところ、日本の気候に合わず、商品が溶け、返品が相次いだときも、誠実に対応し信用を勝ち取りました。

グンゼの波多野鶴吉、TOTO の森村市左衛門、SONY の共同創業者の一人前田多門などもクリスチャンで、福音と信仰によって自分の人生が変えられたばかりでなく、利潤追求が第一

であった日本の企業が社会貢献や労働者の福祉を大切にする企業へと変られるのに貢献しました。日本のクリスチャンの数は少ないのですが、たとえ少なくとも、さまざまな分野で社会に尽くしている人々がいることは幸いなことです。

私たち一人ひとりも、福音を聞き、それを信じて人生を変えられました。「力」と「聖霊」と「強い確信」とありますが、福音の力は聖霊の力です。聖霊は聞いて信じる者を新しく生まれ変わらせ、その人生を変えてくださるのです。そしてそのように変えられた人を通して、社会が、国が、世界が変えられてきました。

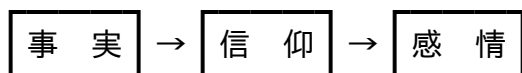
二、信仰の確信

福音を信じて救われた者には、救いの確信が与えられます。「私は救われている」という喜びが伴うのです。ところが、「私はほんとうに救われているのだろうか」と疑い、救いの確信を失くしてしまうことがあります。

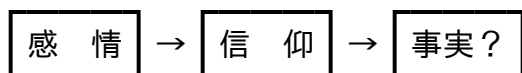
私たちが信仰の確信を失くすのは、多くの場合、自分の感情に頼り過ぎるからです。感情は人が人であるために大切なものです。神はじつに感情豊かなお方であり、その豊かな感情を「神のかたち」の一部として人にお与えになりました。ですから感情は無視できません。6節に「あなたがたも、多くの苦難の中で、聖霊による喜びをもってみことばを受け入れ、私たちに、そして主に倣う者になりました」とあるように、救われた者には、今まで体験したことのない喜びや平安、慰め、勇気などが訪れます。心にもからだにも力を感じるのです。しかし、その感じ方は人によって違います。ですから、自分には他の人のようなドラマチックな回心の体験がないからといって救いの

確信を持てないでいるとしたら、それは感情が救いの事実より先に来ているからです。

私たちの信仰は福音が伝えている事実に基づいています。信仰とはこの事実を受け入れ、それに信頼することなのです。喜びや平安などの感情は事実に基づいた信仰から生まれます。図で表すと、



となります。これを逆にして



とすると、イエス・キリストがなしとげてくださった十字架と復活による救いの事実さえ、あやふやなものに見えてしまい、信仰の確信を失ってしまうのです。

私たちの信仰の確信は第一に、神の言葉から来ます。ペテロ第一 1:23-25 にこうあります。「あなたがたが新しく生まれたのは、朽ちる種からではなく朽ちない種からであり、生きた、いつまでも残る、神のことばによるのです。『人はみな草のよう。その栄えはみな草の花のようだ。草はしおれ、花は散る。しかし、主のことばは永遠に立つ』とあるからです。これが、あなたがたに福音として宣べ伝えられたことばです。」神の言葉は滅びません。ローマ 10:9 の「あなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせたと信じるなら、あなたは救われる」との約束は決して変わりません。「イエスは私の罪のために十字架で死なれ、私を救うために復活された。このイエスを私は救い主と信じ、私の人生の主として受け入れます。」そう言い表した人は確かに救われています。人は心で信じ、口で告白して救われます。

信仰の確信は第二に、聖霊によって与えられます。きょうの箇所5節に「力」と「聖霊」と「強い確信」とありました。これは、福音の力が聖霊の力であるとともに、信仰の確信も聖霊が与えてくださるものであることを教えています。

今では家畜を管理するために耳にタグをつけますが、昔は焼きごてで皮膚に印をつけ、所有権を表わしました。それを「ブランディング」といい、特定の製品につけられる「ブランド」という言葉はここから生まれました。キリストを信じる者には「クリスチャン」という「ブランド名」が与えられています。それは聖霊によって与えられたものです。エペソ 1:13 にもこうあります。「このキリストにあって、あなたがたもまた、真理のことば、あなたがたの救いの福音を聞いてそれを信じたことにより、約束の聖霊によって証印を押されました。」

この「証印」には二つの意味があります。一つ目は、イエス・キリストを信じた者は「キリストのもの」とされ、それによって「神のもの」、「神の所有の民」となったということです。二つ目は、栄光の神の御国がその人のものとなったということです。エペソ 1:14 で「聖霊は私たちが御国を受け継ぐことの保証です」と言われている通りです。私が神のものとなされ、神が私のものとなってくださった。私はすでに救われており、これからも救われ続け、やがて完全な救いを見る。聖霊はそのことの保証です。

私たちの「ブランド」、「証印」、「保証」である聖霊は私たちの内に働いて、信仰の確信を強めてくださいます。ローマ 8:14-16 はそのことを教えています。「神の御霊に導かれる人はみな、神の子どもです。あなたがたは、人を再び恐怖に陥れる、奴隷の霊を受けたのではなく、子とする御霊を受けたので

す。この御霊によって、私たちは『アバ、父』と叫びます。御霊ご自身が、私たちの霊とともに、私たちが神の子どもであることを証ししてくださいます。」「御霊ご自身が、私たちの霊とともに、私たちが神の子どもであることを証ししてくださいます」というところは「御霊の証し」と呼ばれています。私たちの信仰の確信を強めてくれるもの、それは、「聖書の証し」と「御霊の証し」です。

ファニー・クロスビーが書いた新聖歌 264 の日本語の歌詞に、「われはイエスのもの、主はわがもの。御霊の証しは、心にあり。」とあります。クロスビーは盲目の小柄な女性でした。けれども、いつもほがらかで、周りの人々を元気づけていました。それは彼女が、その歌のとおり信仰の確信で満たされていたからです。私たちも信仰の確信を保ち続けられるよう、御言葉に聞き、御霊の証しに目を向けたいと思います。

（祈り）

父なる神さま、あなたは信じる者にイエス・キリストによる「救い」を与えてくださっただけでなく、聖霊によって「救いの確信」をも与えてくださいました。テサロニケのクリスチャンが「聖霊による喜び」によって御言葉を受け入れたように、私たちを、御言葉と聖霊によって、信仰の確信を強くし、喜びに満たされる者としてください。イエス・キリストのお名前前で祈ります。